

コラム 国道 107 号(西和賀町)の土砂災害に関する技術指導

平成 27 年 3 月 29 日 14 時 00 分ごろ、岩手県の国道 107 号(西和賀町)で土砂崩落が発生し、約 4.7km が全面通行止めとなりました。これにより、国道と並行する秋田自動車国道湯田 IC と北上西 IC 区間で無料措置がとられましたが、地域住民の日常生活や西和賀町の観光・経済に影響を与えました。

土木研究所では、岩手県からの要請を受け、地質・地盤研究グループ地質チーム、土質・振動チーム、寒地基礎技術研究グループ寒地構造チームから土砂災害や防災構造物の専門家を現地に派遣し、崩壊地に対する応急対策や被災した構造物(スノーシェッド)に対する対策方針に関して専門的知見から技術的助言を行いました。その後も 4 回に渡り現地調査に赴き、応急対策の実施状況や効果などを継続的に確認してきました。その結果、国道 107 号の不通区間は平成 27 年 11 月 28 日に片側交互通行での開通となりました。これにより、地域住民の日常生活や観光など地域経済の復旧に貢献することができました。



写真-1 現地状況全景



写真-2 土砂崩落斜面周辺のボーリングコアの確認



写真-3 スノーシェッドの被災状況確認



写真-4 道路管理者との打合せ状況